

## ■ 令和4年度 第9回 秋葉区自治協議会

日時：令和4年12月23日（金）午後1時30分

会場：秋葉区役所6階 601・602会議室

### 1 開会

（金子会長）

ありがとうございます。皆さん、大変お疲れさまです。では、第9回の自治協議会をこれから始めてまいります。開会のあいさつは、第1部会の長谷川隆委員からお願いいたします。

（長谷川（隆）委員）

新関コミュニティ協議会の長谷川でございます。お疲れさまでございます。

1年もあっという間に過ぎまして、今回のこの会議が今年最後ということになりました。振り返りますと、私的には、この1年間こうして皆さんからいろいろな会議で意見が出たり提案があったりという発議があったわけではありますが、それに対してどのような改善が行われたのか、あるいはどのような結果になったのか、それらについての進捗状況がよく理解できない。私自身も少し理解力が貧弱なものですから、振り返りますと何かそのような気がします。この先は、この1年間の会議の中で何が問題点を何を継続しなければいけないのか、今後何をやればよいのかが見えてこないような1年間であったなど、そのような感じがしております。ですから、恐らく一般の市民の皆さんには、先回、会長から自治協議会の認知度の報告がありましたけれども、自治協議会に対しての一般の市民の皆さんの認識が非常に低い。20数パーセントでございましたでしょうか。ということで、その辺も会議の中で取り上げて、もう少し浸透してもらうような形を工面しなければだめかなと今考えているところでございます。

それはそれとして、年が明けますと恒例の「ひな・お宝めぐり」、これは自治協議会が主催して秋葉区全域でやってもらうということになっているわけですが、保育園の小さいお子さんから老人クラブのお年寄りまで、多くの団体と一般の市民の皆さんに参加していただいて全体で盛り上げていくというイベントですが、私も去年初めてやったわけで、大きいところは7会場、これを巡回して見させていただいたのですが、皆さんからも新関にもおいでいただいてご覧いただきました。ただ、そのときに感じたのは、私どもが行っても皆さんがおいでになっても、どこの誰が来たかまったく分からない。こうして会議をやるときは、役所の皆さんは名札を付けていらっしゃいますし、私どもも

会社に行けば会社の名札を付けるわけですし、コミュニティ協議会に行けばコミュニティ協議会の名札を付けるわけです。少なくともこの自治協議会が関与してやる行事には、せめて名札くらい作って、名札を付けて対応していただければ、一般の皆様にもこの自治協議会の名前が浸透していくのではないかと考えております。ですので、今回のお宝めぐりにも、年が明けて2月ですが、ぜひ名札くらいは作っていただいて、それで皆さんに覚えていただくと、PRしていくという手立ても必要かなと思います。

それからこの行事に関してもう1つ言えば、どこの会場もそうなのですが、入口に会場を記した看板がないのですね。これも自治協議会の存在感を高める意味でも、入口に看板を作って、「自治協議会主催の秋葉区ひな・お宝めぐり会場」という看板を入口に掲げれば、どなたが来ても自治協議会が主催してこの事業をやっているのだということを知っていただけたらと思うのです。それもそれほど経費がかかるものでもないし、名札と一緒に、それほど数を作るわけではないですから、ぜひそのくらいはやって、少しでもこの自治協議会の認識度を高めていくような策も少しとっていただければだめかなと、そういう気がした1年でした。

いろいろとやり方はあると思うのですが、それは後にしまして、来年度はぜひこの協議会の存在感を示せるような年になってくれれば良いなということを申し上げまして、簡単ですが開会のごあいさつとさせていただきます。

(金子会長)

長谷川委員、ありがとうございます。

今日は、実はこの会議終了後、本日は2つしか議題がないので、割とコンパクトに終わると思うのですが、その後、今、長谷川委員からご提案のあったような趣旨のものもテーマに含めたワークショップを急遽やることになりまして、開催の通知については皆さんもお受け取りいただいているかと思っておりますけれども、そのようなことも含めて自治協議会の今後のあり方というものを一緒に考えて、改善をしていきたいと考えております。

それでは、これから議事に入らせていただきますけれども、その前に1点、青木委員から、この自治協議会の会議内での会議の進め方とか、委員の発言の仕方等について、1点ご提言をいただけるということですので、青木委員、お願いしてもよろしいですか。

(青木委員)

貴重な時間をいただいてすみません。第2部会、金津コミュニティ協議会の青木と申します。

私事の提案を1点させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

皆さん、ご存知のとおり、自治協議会とは、市民と行政が協働して地域のまちづくり、課題解決、住民自治の推進、ということで、素晴らしい制度でございまして、この会議もそれなりの素晴らしい闊達な意見が出ていいことだと思うのです。ただ、この会議も時間があります。また、この本会議が終わってから部会があります。そして一人でも多くの方が発言されるのもいいかなと思ひまして、発言される方は、思いつきでただら話すのではなくて、失礼な言い方ですけども、要旨をまとめていただいて簡潔明瞭に、誰が聞いても分かりやすい、そういう発言なり質問をしていただければいいかなと、そのように思ひますので、1点提案をしたいと思ひます。また、会長も議事の進行は大変かと思ひますけれども、特に実のある、実効のある会議にするために、発言を遮るのではなく、発言される方に適切なるアドバイスを行って、会議の運営をできればお願ひしたいと、そのような提案とお願ひでございまして。以上でございまして。よろしくお願ひします。

(金子会長)

青木委員、ご提案ありがとうございます。皆さんも重々ご存知のうへで発言いただいているかと思ひます。簡潔明瞭に、本当に心掛けたところで、私自身も心掛けたところでもありますけれども、なかなか難しいことでもありますね。心掛けたうへで、お互い協力し合いながらいい会議にできるように、改めてお願ひしたいと思ひます。

それでは、議事に入ってまいります。その前に、本日の報道からの取材協力の依頼ですけれども、新潟日報とFM新津から依頼をいただいております。写真撮影、録画、録音などを許可してよろしいかお諮りしたいと思ひますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声)

異議ございません。許可することにいたします。

## 2 議事

(1) 令和5年度秋葉区特色ある区づくり関連事業の企画立案に対する回答書の提出について

(金子会長)

では、次第の1番から入らせていただきます。「令和5年度秋葉区特色ある区づくり関連事業の企画立案に対する回答書の提出について」ということで、前回、区づくり予算に関するご説明をいただきまして、それに対して皆様からご意見をいただいたわけですから、それを踏まえたうへでの回答書ということで私から提出させていただきます。資料1番をご覧ください。

新潟市長中原八一様ということで提出させていただいております。秋葉区の特色あある区づくり関連事業の企画立案についてということで、これが秋葉区自治協議会からの回答ということになります。読み上げさせていただきます。

「令和4年11月17日付け新秋地総第1156号にて意見聴取のありました標記のことについて、自治協議会における議論や、昨年度実施した「秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査」の結果及びそれに基づく提言も踏まえた事業編成を行っていただきました。内容に異議はなく、今後も区民の声を積極的に拾い上げ、益々充実した区政運営に努めていただきたくお願いします。」ということで回答済みでございます。

前回はさまざまご意見をいただいておりますけれども、個別の施策に関する内容がほとんどでして、示された資料に対して特に異論はなかったように見受けましたので、このような形で回答させていただいたところです。これにつきまして、何か皆さんからご意見、ご質問がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

特にございませんでしょうか。ありがとうございます。それでは、以上をもちまして次第（1）「令和5年度秋葉区特色ある区づくり関連事業の企画立案に対する回答書の提出について」は終わらせていただきます。

## （2）令和4年度第2回新潟市区自治協議会会長会議について（報告）

（金子会長）

続きまして、資料2をご覧ください。次第（2）「令和4年度第2回新潟市区自治協議会会長会議について」、この開催された報告を私からさせていただきたいと思っております。

資料2が会長会議の次第が表になっているものなのですが、12月1日に実施されました。今年度の第2回ということになります。会場は万代市民会館です。実は、私、この日はどうしても大事なゼミの授業と重なってしまいまして、この会議自体には出席することができなかつたのですが、その前後、しっかりと市の担当の方からさまざまな連絡をいただきまして、意思疎通も図っております。どのような会議だったかということ、私からここでご報告をさせていただきます。資料2を1枚めくると会長会議の資料1と、少しまぎらわしくて申し訳ないのですが、資料2の2枚目をご覧ください。

まさに市役所でもこの自治協議会をさらに機能的な組織にするということで、今年度、本当に担当の方も意欲的に自治協議会の改革と申しますか、さらなる進化というのでしょうか、それを目指して、会長会議にもさまざまな提案をしていただいているところで、皆様にもお答えいただいたと思うのですが、区自治協議会の活動に関するア

ンケートというものを、今年度9月に実施しているところです。その結果を踏まえて、今後どのように自治協改革を進めていくかということに関する、そういうものがメインの議題として今回は行われました。

集計結果が2番のところに出ています。8区、計188の回答、回収率74.6パーセントです。②として、活動や運営における課題、アンケート結果です。ここから3つ選択してくださいという設問だったわけですが、一番多かったのが1番の自治協議会の認知度向上、これが96件になりました。次が、2つ同じ回答数だったのですが、2番の幅広い年代の委員の確保というところで83件、同じく83件で住民の意見・ニーズの把握方法です。こちらの3点が本当に突出して高かったという、そういう結果になりました。ここに関する自由記述欄の主なものがその下に抜粋・要約されています。こちらは、各自ご参照いただければと思います。

そのページの裏をめくっていただきますと、課題解決に向けて必要な改善・取組みの方向性を1つ選択してくださいという設問がありましたが、そこで一番多かったのが73件、3番の地域課題や住民ニーズの把握力強化に向けた取組みが本当に飛び抜けてたくさんの方が回答がありました。多かったです。その次が30件ですので、73から30ということで、ここは相当幅があります。30件の回答があったのが1番の広報・発信力強化に向けた取組み、その次が28件で5番の全体会や部会の運営力強化に向けた取組みということで、このような結果となっています。主な意見の抜粋・要約は、その下に書かれてあるとおりです。

そして、次に3番です。委員研修に関する意見ということで、各委員が課題であると感じる項目の4位、5位を占める②表との対表でご覧いただければと思います。地域課題の解決に向けた検討や話し合いの技術を高めるような研修が必要なのではないかというのが55票、そして委員としてのスキルアップが49票という、そういう結果でございました。

簡単でありますけれども、アンケートの結果がこのような形であったということ踏まえて、今後の取組案というものを事務局側からこの会議で示していただきました。アンケートの結果から見える課題として、3ページと振られている資料ですが、方針の案は、委員の課題意識が高い項目に集中的に取り組むという、そういうところから課題が五つ提示されています。1つは自治協議会の認知の向上、2つ目として住民の意見・ニーズの把握方法、3つ目が幅広い年代の委員の確保、4番目が検討や話し合いの技術、そして5番目として委員のスキルアップということです。そして、それぞれに対応するような方向性の案が①から③で示されています。

その下、表の下になりますが、まず1つ目が区民アンケートです。こちら、昨年度秋葉区で行われたような、暮らしやすさに関する意識調査ということでやらせていただきましたけれども、その辺が非常に効果的だったということで、市役所の担当としてもこれを全区で展開してもいいのではないかという、内容は別途協議していき、その区に合わせた内容にする部分もあるかと思うのですけれども、ある程度共通項目を設けたうえで定期的にこういう定期アンケートを各区の自治協議会が行うというようなことを検討したらいいのではないかという、そういう提案がございます。

②として、委員研修の今後のもち方ですね。委員研修は、区ごとにやっているものもありますけれども、今年度はまだ行われていないわけですが、全区共通の委員研修がこれまで年1回ございました。そのもち方をどうしたらいいかということで、事務局からの提案としては、まず初任者研修です。初任者に対する説明会はこれまでも区ごとに行われていたのですけれども、それを全区共通の内容で、自治協議会とは何かということや、それに関連するような条例などの基本的な知識は共通するところですので、そういうものを全区から新任の委員の皆様を集めて集会的になるということも1つの案ではないかということです。全体研修は5月頃の、これまでは夏とか秋になる講座が多かったのでしょうか。そうではなくて、任期は基本的に2年間しかないので、早い時期に1回全体研修をやったらいいのではないかということで、任期のうちの1年目は市の総合計画とか予算状況、各自治協議会の事例発表など、2年目は自治協や地域の課題解決に向けた内容などということで大まかに示されております。そのほかに区ごとにやっている研修という、この3本立てでやってみたらどうだろうかということです。この辺は、次ページに図で説明されていますので、そちらでまたご説明したいと思います。

3番目として、幅広い年代の委員の確保という、こちらも非常に課題の意識が高かった部分にはなるのですけれども、例えば公募委員の枠組みをどうするかみたいな話や、一部の意見としては、若い世代を意識的に取り込むということで、例えば何歳以下の委員を何人みたいに、そういう枠組みを設けてもいいのではないかみたいなご意見もあるわけですが、それは現実問題として来年度からそれを導入するというのは非現実的と申しますか、すでに委員の公募も始まっているところですし、これから大きな改革が進めるのは混乱が生じるということで、当面検討していこうというようなことに提案内容はなっています。

まためぐって、4ページとページ番号が振られている部分です。令和5年度からの改善ということで、図も用いて説明されています。図はどうでしょうか。分かりやすいでしょうか。2年間の任期の中で、各期の1年目、とりあえず来年度がそこに当たるわけ

です。初任者研修からさっそく始まって、春のうちの全体研修をやって、その後各区の研修は各区に委ねられるという部分になるかと思えますけれども、それから年度内に各区で行う区民アンケート、どのようなものにするかということを検討していくということです。そういうものをリンクさせていき、2年目に入りましたら、実際に区民アンケートを実施して、それをまとめるという作業が入ってきます。それと平行して全体研修と各区の研修が1回ずつ行われるという、こういう格好になるわけです。そして区民アンケートのまとめは、その次の期に対して反映させていくというような循環を行っていくというのが、この図が示しているものになります。

そのようなものをサイクルとして1つ置きますと、若干長期的な効果も期待できるかなということで、①・②の具体案、長期イメージという図がその下にございます。区づくり予算事業に関するニーズ調査というものを例えば令和5年から6年にかけて行うとすると、その次の期は区政の方向性に関する本格的なニーズ調査、その次の2年間は区づくり予算事業に関する区民ニーズ調査、その次の2年に関しては区政の方向性などに関する本格的なニーズ調査というように、それぞれ各期に必要な調査を、テーマを変えて、そういう内容も盛り込んだような形でやっていくことによって、長期的に区政であるとか市政に反映していく、そういうサイクルができるのではないのでしょうかということで、これはあくまでも1つの案です。イメージとして示しているものです。こうすると決まっているものではなく、事務局側のイメージとしてこういう活用の仕方がありますよということで説明がされています。

ということが主な会長会議の検討内容だったわけなのですけれども、資料3という5ページ目で触れられているのは、今年度まだ行われていない第8期の振り返り資料の方向性に向けて委員研修会を行ってはどうでしょうかという、これももう1つの具体的な提案として挙がっているものになります。結論から言うと、今年度は全体研修という形はとらずに、アンケート調査から見えてきたような課題からテーマを抽出して、それを各区の自治協議会で時間をつくって検討してください、意見を出してくださいという形のもので1回もつことによって、それをこれまでやっていた全体研修の部分に充てるというような提案になっています。ややこしいですけれども、お分かりいただけましたでしょうか。全体で集まってやるというのは、今年はやらないと。その代わりに区ごとに、今回の会長会議で出てきたようなテーマについて意見交換、意見出しをしてみて、それをもとに来年度からの進め方を検討していこうという、そういう内容です。

これに基づきまして、本日、この会議が終わり次第、場所を移動しまして、それぞれのテーマごとの意見出しをする。簡潔なワークショップと申しますか、今日は2つしか

議題がなかったものですから、秋葉区は一番にやっけてしまおうということで、本日、それを設置させていただくことにいたしました。そのようなことで、内容については、アンケートをどうするか、どのような形でやるべきか、どのようなことを汲み取ったらいのかというようなことですね。もしかしたら区によってはこういうものは必要ないみたいな結論が出ることもあるかもしれないですね。でも、秋葉区としては、すでに1回住民の意識調査をやったという経験を踏まえて、それに基づく意見が出てくればいいのかと感じています。区民アンケートでも、認知度向上というものが大きな課題として挙がってきていましたけれども、アンケートも1つの認知度向上の効果があるかと思いますが、それ以外にどういう方法があるかということ、これもぜひ検討してくださいと本庁からきています。もう1点ここに書かれているのは、委員研修はどのような内容が望ましいかということです。これは、秋葉区だけの研修ではなくて、全体の研修の枠組み、そういうものに対する意見も求められていますので、そういうことを本日の後半の部分で皆様からご意見をいただければと思っております。

そういうものを区ごとに検討したうえで、それを第8期、今期の振り返り資料にも反映させていくということで、特に新規追加部分とここに書かれていますけれども、アンケート結果を踏まえた自治協議会の活動における課題解決に関する情報共有ということで、この後やるワークショップの結果などを盛り込んだ振り返り資料にしてはいかがでしょうかということで、事務局から提案がありました。

その次の3ページに渡りまして議事録が添付してございます。議事録を読み上げることまではしませんけれども、各区の会長それぞれにご意見がありまして、さまざまな意見がそこで活発に出されたということだそうです。私はその場になかったもので空気までお伝えすることができないのですが、本当にさまざまな意見が出て、実を言うと事務局側も取りまとめに苦労したという、そのようなことを伺っております。ですので、何か1つ方向性がまとまったということをここで断言するのは難しいところがあるのですが、1つ決まったことは、先ほどの事務局の提案にありましたように、今回、アンケートの結果を踏まえて出てきたテーマを各区に持ち帰って、そして委員研修という形で検討すると、そういうプロセスに進みましょうというところが決定されたということになります。

私もさっと読んでみたのですが、さまざまな意見があつて、これは本当に取りまとめが大変だったろうなと思っております。ここから先、具体的な方向性を示すためにも、今日の後半で行うワークショップで秋葉区ならではの意見をしっかりと取りまとめて提出することができればと思っておりますので、皆様、ご協力のほどをお願いいたし

ます。

以上、会長会議、12月1日に行われたものに対するご報告とさせていただきますが、これに関しましてご意見、ご質問等がございましたらお願いします。

走り走りのご説明で、お分かりいただけましたでしょうか。小山委員が首をひねっていますけれども、大まかにでも分かっていたけるとありがたいです。佐々木さんは、分かりましたという感じで頷いてくださっていますけれども。これは自治協議会も本当に改革の時期なのだなというところが、長谷川委員のごあいさつにもありましたとおりでと思います。そこに向けて、恐らくこの秋葉区の自治協議会というのはかなり先駆的な動きをすることができていて、それは一つの刺激にもなっているのかなと、若干手前味噌ですけれども、私としてはそのような評価をしております、その先駆者として今日もいい意見交換ができればと思っているところでございます。何でもけっこうですけれども、よろしいですか。

(長谷川(隆)委員)

自治協議会の認知度の向上というテーマなのですが、4ページにその行程が出ていますけれども、これをやったときの成果はどこで検証するのでしょうか。半年なり1年後なりにその成果を検証していかないと、どれだけ効果があったのかということが判断できないということがありますので、その成果によってはやり方を変えるとか、方法を考えなければいけないかなと。

(金子会長)

おっしゃるとおりだと思います。確かに評価のプロセスがここに入っていないので、自治協議会の動き自体を評価するような仕組みも盛り込んでいく必要があるのかなということですね。その辺は、また会長会議などの提言に盛り込んでいきたいと思います。ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。では、本当に本会議はこれで終わりになってしまうのですけれども、これだけ短かったのは記録的ではないでしょうか。驚くべきことですね。

では、以上で次第の(2)を終了とさせていただきたいと思います。

### (3) その他

(金子会長)

では、次第の(3)「その他」で、各部会からのご報告をいただきたいと思います。一通り第1部会からひな・お宝めぐり部会の順番でご報告いただいて、終わってから全体でご意見、ご質問をお伺いしたいと思いますので、まず、第1部会をお願いします。

(小山委員)

第1部会の報告をさせていただきます。今回、4件採択されまして、「アキハフジンロックフェスティバル」が、12月14日に区役所で第3回目の会議を行ったということです。3月4日の文化会館でのイベントに向けて今後も協議していきたいと。今、このような状況です。

「クマ・イノシシなどの大型獣から命を守る安心安全なまちづくり」、これは12月4日に金津地区のコミュニティセンターで「クマ・イノシシ大型獣の出没訓練」を行って31名が参加されました。金津地区のイノシシの状況説明、遭遇時の身の守り方、クマスプレーの使い方の説明などを行いました。

次に「秋葉区フォトコンテスト」、イベントはすべて終了しております。中央コミュニティ協議会にも展示されました。現在、精算処理と実施報告の準備中です。

もう1つが「秋葉地区周辺案内地図設置事業」ということで、これは私ども中央コミュニティ協議会のものですが、案内地図はほぼ出来上がりました。今後、担当されている方々や建設課のご指導をいただきながら検討を重ねて、3月下旬、雪解けのころに、案内地図を設置いたします。

4件とも3月には素晴らしい成果をご報告できると思います。こういうものをPRすると、認知度も上がるのではなかろうかと、このように思っております。

(金子会長)

小山委員、ありがとうございました。第2部会の蓮沼部会長、お願いします。

(蓮沼委員)

第2部会の蓮沼です。

第2部会は、満日地区の買い物支援の第1回目が12月6日に実施されました。11名の地域の皆さんが登録しているのですが、6日は9名が参加し全員が女性でした。4台に2人から3人乗車して、地域から買い物先のウオロクまでの送迎を行いました。私たちがウオロクの前で立ち会って様子を伺ったり、買い物をしている皆さんと意見交換を行いました。送迎中の車の中でも和気あいあいと楽しそうな会話が聞こえていて、運転手も本当に嬉しかった、楽しかったと言っておられました。次が12月20日、2回目だったのですが、残念ながら大雪で中止せざるを得ないということで、車を提供している各施設の方も、自分たちの送迎もままならない雪の状況で大変な状況でした。当時、20日に私もウオロクに買い物に行ってみたのですが、パンがまったく届いていなくて売っていないという状況で、これでは買い物に連れてきても品薄でだめだったのかなということで、これからも季節の状況によっては行けない時期も当然あるかなということが

1つの教訓となったと思います。これをもう一度、来月、2月と振り返りをやって、次の3月からの本稼働でどのような改善をしていったらいいかをこれから議論して、3月の本稼働を目指していきたいと思っています。

(金子会長)

ありがとうございました。では、第3部会の花水部会長、お願いします。

(花水委員)

第3部会の花水です。

第3部会、「もち麦クッキング」と「歴史講演会」です。「もち麦クッキング」は、先週、第2回目の食材が配送されまして、参加者は15名と低調なのですが、もち麦と里芋の煮物とリンゴのヨーグルト和え、きのご飯ということで、配信も行っております。12月6日に第3回目の試作を行いました。こちらは、1月12日に収録予定と撮影を考えております。こちらのメニューとしてもち麦入りのパンケーキ、プチベールともち麦入りのシチュー、もち麦ドレッシングサラダということで、バレンタインデーを意識してもち麦入りのケーキを作ってみました。なかなか周知もままならないのかなと思うのですが、皆さんもお声がけをしていただきまして、もっともち麦の推進をしていただければと思っています。

「歴史講演会」ですが、2度の延期になりましたけれども、1月22日の日曜日、9時45分から11時45分、文化会館で行います。今のところ86名の方の申込みがありますので、こちらも定員が150名なので約半分です。まだ日にちがありますので、こちら皆さんからお声がけいただければありがたいと思います。

(金子会長)

ありがとうございます。広報部会の加納部会長、お願いします。

(加納委員)

広報部会の加納です。

先日、12月20日に広報部会を開かせてもらいました。議題としましては、かわら版32号「あきはくはつものがたり」、3月19日に発行予定です。配布方法としては、新聞折り込みを従来どおり予定しております。掲載内容につきましては、8期の第1部会、第2部会、第3部会の振り返りと会長、副会長からも8期の思い入れを大きく語っていただきたいと思っています。レイアウト、内容につきましては、今ここで話すのは困ってしまうほど多くの意見が出ておりましたので、乞うご期待ということでお願いしたいと思っています。

それから、いつも通りに1月12日、再放送が14日、FMにいつの「あきはくはつも

のがたり」、皆様それぞれ担当の発表者がいらっしゃいますので、これもお聞き逃さないようにお願いしたいと思っております。

2月から始まる「ひな・お宝めぐり」のスポットCMも収録しておりますので、FMにいつのスイッチを入れて、こちらもお聞きいただきたいと思っております。

(金子会長)

ありがとうございます。では、そのひな・お宝めぐり部会は、大貫副部長からお願いいたします。

(大貫委員)

ひな・お宝めぐり部会の大貫です。報告させていただきます。

第2回の会議を11月16日に開催いたしました。今現在で130以上の団体、吊るし飾りは240基以上、300まではいかないのですけれども、その数になっております。ひな壇は、美術館と区役所に例年通り飾らせていただきます。文化会館は飾るのをやめて、バナーで皆さんの目を引きたいと思います。新しく健康センターにも、育ちの森もありますしけっこう会議の会場にもなっておりますので、そちらにひな壇を飾らせていただくことになっております。先ほどのバナーなのですが、文化会館と新津駅、矢代田駅、そして薬科大の駅前キャンパスに飾ろうと思うのですけれども、今、飯村先生が大学側と検討中であります。

地域のお宝についてなのですけれども、神社仏閣だけではなくて、昨年私が新関の会場に行ったときに、学童の子どもからうちのおじいちゃんがイチゴを作っていてそのイチゴはすごく美味しいのだよと教えてもらったのです。地元ならではのそういう隠れたお宝を、1号委員の方々が地域と一緒に発掘してPRできたらいいなと思っております。皆さん、楽しみにしてください。

人形の展示なのですが、荻川コミュニティセンターもひな壇の展示を行うことになっておりますので、よろしくお願ひします。本当に寒さや雪で気分がめげてしまいそうなのですけれども、のぼり旗がたなびくピンクのこの季節、自治協議会の皆さんの一緒になって盛り上げていただきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。

(金子会長)

ありがとうございます。それでは、各部会からご報告いただきましたので、ここから質疑応答にしたいと思ひますが、ご質問、ご意見でもけっこうですけれども、何かございましたら挙手のうえご発言をお願いいたします。

(長谷川(隆)委員)

大貫委員、ありがとうございます。今年もぜひイチゴは用意したいと思ひますので、

ぜひ皆さんもおいでください。時期が早いと非常に高価なものですから数は用意できませんが、味見するくらいは用意させていただきたいと思いますので、ぜひお越しいただきたいと思います。

先ほど申し上げましたように、会場の入口に、この行事は自治協議会が主催してやっているということを知っていただくための看板といいますか、ポスターといいますか、立て看板みたいな大きいものでなくてもいいのですが、入口のところに貼る程度のものでいいと思うのですが、名前をきちんと認知していただけるような方法をとっていただければと思いますが、いかがでしょうか。それほど金のかかるものではないと思うのです。

(大貫委員)

次回、1月10日に会議がありますので、そのときに皆で協議したいと思います。いい方向に向けて、長谷川さんの願いが叶うような方向に向けて話し合いを進めたいと思いますので、安心なさってください。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。特にございませんでしょうか。ありがとうございます。では、それ以外のことで何か。

(木村委員)

小須戸コミュニティ協議会ですけれども、移住モデル地区の推進事業については、小須戸については終了したわけですが、こういうマップを作らせてもらいました。今後とも活用していきたいと思ひますし、皆さん、小須戸をお歩きになるときにはどうぞご利用ください。ご紹介しておきます。

(金子会長)

ありがとうございます。素晴らしいマップが完成しましたね。ぜひこういうものを活用して、皆で盛り上げていけるといいですね。共有ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

(佐々木委員)

佐々木です。

皆さんの机の上に配布させていただきました「にいがた秋葉っ子ふゆまつり」の黄色いチラシなのですが、ご覧いただきたいと思ひます。今、実行委員会を結成いたしまして、1月29日を目指して実行委員の皆でこのお祭りを成功させようと頑張っております。この下のほうの協賛企業、団体というところにコミュニティ協議会の皆さんのお名前も載っているかと思ひますが、ご協賛いただきましたコミュニティ協議会の皆

さん、大変ありがとうございました。そしてたくさんの皆さんから協賛いただいております。裏面に移りますと協力団体ということで、当日の会場で協力してくださる団体の皆さんのお名前も載っております。当日は 12 時半から 3 時半までの 3 時間でございますが、どうか皆さん、お子さん、お孫さんを連れてぜひ会場にいらしていただきたいと思います。当日は飲食なしの 3 時間運営でございますけれども、テイクアウトもいろいろご用意しておりますので、ぜひお越しいただきたいと思います。37 団体の皆さんが、いろいろなゲームや工作ですとか、そして地元の食材などを持ってきて、ここで子どもたちのために楽しいお祭りをということで開催しております。

そして、コミュニティ協議会の皆さんのところには机の上にポスターが 2 本ずつありますので、ぜひコミュニティ協議会で飾っていただいたり、もしでしたらお家の玄関前に飾っていただいたり、まだ若干残っておりますので、宣伝をしていただける方は、家でも飾れるよという方はぜひお声がけいただきたいと思います。

そしてもう 1 つなのですけれども、この冬まつりとは関係ないのですが、実は学童で子どもたちが秋休みに荻川周辺を取材しまして、「荻川グルメマップ」というものを作らせていただきました。2 枚に渡るのですが、子どもたちが写真を撮ってお勧めのものですとかを商店にインタビューして作った地図になります。荻川の方でも荻川ではない方でも欲しいという方は、今日、少し持ってきましたのでお声がけいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(金子会長)

佐々木委員、ありがとうございます。いずれも素晴らしい取組みですね。ほかにいかがでしょうか。ほかにございませんか。よろしいですか。

それでは、ないようであればこれで閉じたいと思いますが、最後に終わりのごあいさつの前に、1 点、私からご協力をお願いをさせていただきたいと思います。

現在、来期に向けて、自治協議会の公募委員の募集が始まっております。先週末の秋葉区だよりもそちらが掲載されているわけなのですが、どこかにこの人いいなという方がいらっしゃいましたらぜひお声がけいただいて、公募の実効性を高めるといううえでご協力をいただければと思っております。ちなみに締切りが 1 月 23 日になっております。ということで、周りにこの人いいのではないかな、特に若い世代とか、活発に活動されている女性の方なども含めまして、多様性のある自治協議会にできればいいと思っておりますので、お声がけ等ご協力いただければと思います。よろしく願いします。

では、以上で議事は終了させていただきたいと思います。

### 3 閉会

(金子会長)

閉会のごあいさつを第1部会の土田委員からお願いします。

(土田委員)

公募委員の土田です。本日も、会議、お疲れさまでした。

公募委員として2年間、自治協議会委員として毎度勉強させていただきながらかわらせていただいたのですけれども、毎度秋葉区のためを思って意見がたくさん飛び交うこの現場で、すごく皆さんの地元愛を感じることができて、毎度いい現場だなと感じております。今回、本日閉めのあいさつということでどのようなことを話そうかと昨日までいろいろ考えていたのですけれども、何も気の利いたことは話せないのですけれども、せっかくの機会をいただけたので少しだけ自分の活動のことも含めてお話をさせていただきます。

私は、舞踊家、ダンサーとして、またアーティスト、芸術家としてこの秋葉区で活動させていただいているのですけれども、最終的に自分が死ぬまでにとというか、秋葉区がアートなまちだねと呼ばれるようなことにするのが1つの目標で、アートとか芸術は今の日本には絶対的に必要だと感じていまして、芸術にもいろいろとあると思うのですけれども、一貫して言えることは表現することがすごく重要なことと考えています。表現するということは、人間だれしも自由にできること、認められていることで、無意識にでもやっていることだと思うのですけれども、さらにそれぞれが得意な分野や職業でもその中で表現活動というものが自然と行われているもので、何かを表現する際に必ず媒体となるものが自分たちのこの人間の身体で、心が動いたときにそれが動機となって手を動かして絵を描く、心が動いて口を動かして話すという表現につながります。体を使うダンスは究極な表現活動になっていて、私はそれが最大の魅力となってドハマリしてダンスをやめられない人生になっているのですけれども、踊ることは生きることであり、生きることは踊ることということを掲げながら生きています。

秋葉区をアートなまちと呼ばれるようにしたいと最初に述べたのですけれども、これは、秋葉区をダンサーで溢れるまちにしたい、アーティストだらけにしたいというわけではなくて、もちろんそのようになることも嬉しいのですけれども、それよりもアーティストやダンサーではない人たちも自信をもって自分の表現をしているというのが、私が思い描く秋葉区の未来像です。つまり、自信をもって自分の表現をしていると、自分自身の人生がいきいきとして、結果的に豊かな生活につながっていくのではないかと信

じています。自分のやっていることに自信をもてることや、自分の考えはこれだと言えること、それが大事になってくるのではないかと考えています。それが実現できるように、秋葉区にアートを紹介してこれからいろいろな仕掛けをつくったり、秋葉区芸術フェスティバルだったり、表現の重要さに気づけるような環境をつくっていったらと思っております。もとより、この秋葉区自治協議会の現場では、そのような姿が少しずつ実現できているのではないかと私は感じています。これがさらに秋葉区中に広がっていき、そういう世界が水のように柔らかく繰り広げられて、いずれ秋葉区にさらなるスポットライトが当たっていき、さらに盛り上がっていくことを今後望んでいます。

今年ももう僅かとなり、また寒波が到来してきて寒い日々が続きますけれども、身体を動かすことを忘れずに、来年を健康で迎えられたらと思います。本日も、そして今年も大変お疲れさまでした。ありがとうございます。

(金子会長)

土田委員、ありがとうございました。この自治協議会もアートで表現できるような組織になりつつあるのでしょうか。この前、皆で一緒に踊りましたしね。確実にステップは上がっているのではないかとと思いますけれども、それぞれが自分を表現できる、それが声にもなって、それがまちづくりにも反映されていく、まさに目指すところは同じなのではないかと思えます。素晴らしいごあいさつをありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。皆様、よいお年を、まだワークショップがありますから、これで帰ってはだめですよ。引き続きよろしく願いいたします。